

福岡県立図書館

令和5年度運営状況に関する評価結果

当館が策定している基本方針及び基本計画を踏まえ、令和5年度重点的に取り組んだ事項と関連する指標についての評価を実施し、その結果に基づき運営の改善を図っています。

基本方針

福岡県立図書館の使命を実現するため、公共図書館をはじめとする県内の各種図書館と連携・協力し、図書館員の専門的能力を生かしながら、資料や情報を収集・保存・提供するとともに、積極的かつ多彩な情報発信を実践します。

目標1：「生涯にわたる学びの支援と情報発信」

幅広く多様な資料・情報を収集・保存・提供し、あわせて多彩な情報発信を行うことにより、県民の学びや課題解決を支援します。

目標2：「子どもの学びと読書へのいざない」

子どもの学びと読書活動の推進拠点として、子どもの豊かで多様な学びを支え、読書の喜びを伝えるお手伝いをします。

目標3：「ふくおかの文化を育む」

福岡県に関する資料・情報を収集・保存・利活用するため、紙資料の収集・保存とともに、デジタルアーカイブの充実を図ることにより、地域文化の継承・発展を支援します。

目標4：「バリアフリーの実現」

県民が、等しく学び、読書に親しむことができる環境を整備することにより、心の豊かさと生きる力を育むお手伝いをします。

目標5：「図書館サービスの推進拠点」

公共・学校・大学・専門図書館やボランティア団体をはじめとする県内の読書関連団体と連携・協力し、電子図書館を含む県全体の図書館サービス向上を目指します。

重点取組の評価基準

評 価	内 容
☆	計画どおりに実施でき、取組や活動に大きな成果がみられた
◎	計画どおりに実施でき、一定の成果があった
○	改善や課題はあるものの、おおむね計画どおり実施できた
△	取組や活動が不十分であり、計画どおり実施できなかった

指標の評価基準

評 価	目標に対する達成率	内 容
☆	110%以上	目標が十分に達成された
◎	100%以上 110%未満	目標が達成された
○	90%以上 100%未満	目標がある程度達成された
△	90%未満	目標の達成が十分ではない

目標１：「生涯にわたる学びの支援と情報発信」

幅広く多様な資料・情報を収集・保存・提供し、あわせて多彩な情報発信を行うことにより、県民の学びや課題解決を支援します。

- (1) 専門書・参考図書を中心に紙資料を網羅的に収集するとともに、各種データベースや電子書籍を含むデジタル資料の充実に努め、県民の学び、課題解決に役立つ蔵書構築を目指します。
- (2) 調べ方の案内やレファレンス事例等の蓄積・発信により、国内及び国外の調査研究のための情報共有を促進します。
- (3) 国や県の関係機関等と連携・協力し、県民の学びに役立つ展示や講演会などの共同企画を実践します。
- (4) ホームページやSNS・動画配信等の活用により、多彩で効果的な情報発信を実践します。

1. 5年度重点取組について

取組の内容	実施状況	評価
(1) 県民の興味・関心に沿った資料の収集と多様な利用方法の提供促進 ① 5年度は、重点収集分野のうち社会が内包する問題等に関して理解を深める「社会的課題」分野を重点的に収集するとともに、「医療福祉」分野におけるワンヘルス推進に関する資料の収集と提供に努めます。 ② 各種データベースの活用を促進し、図書館利用者の利便性の向上を図ります。 ③ 引き続き学校等における電子書籍の活用について調査研究を継続し、電子書籍サービスの提供体制を構築します。 ④ 中高生向けに本を紹介する際、紙の本と電子書籍の記事に併載するなどハイブリッドな読書推進を図ります。	① 重点収集分野「社会的課題」分野資料を751冊、ワンヘルスに関する資料を93冊収集しました。 ② オンラインデータベースのアクセス件数は58,291件でした。また、利用状況を分析し利用の少ないものは契約更新を行わず、新たに課題解決に役立つサービスを新規契約するなど、見直しを実施しました。 ③ 調査を通じて電子書籍が学校での読書活動や中高生の読書の場として活用できるとの結果が得られたことから、6年度から、学校に加え、子どもや障がい者の読書活動を支援する団体等に対し、電子書籍を活用した支援サービスが実施できるよう取り組みました。 ④ 読書への関心を高めてもらえるよう、中高生に本を紹介する際、紙の本だけでなく電子書籍も併せて紹介しました。	○
(2) 県民の学び、課題解決への支援とデータの共有・活用 ① 様々な図書館資料を活用し、レファレンスサービスの充実に取り組みます。引き続き紙の書籍とデータベース等の電子情報を活用したハイブリッドな情報サービスを推進します。 ② レファレンス協同データベースへ事例を積極的に登録し、当館の蓄積した情報が広く活用されるよう努めます。 ③ 電子書籍においても専門書、参考図書を重点的に収集し、非来館でも課題解決に役立つ資料の収集に努めます。	① レファレンス件数は50,675件でした。また、レファレンスにおいて、引き続き、紙資料のほか電子書籍、契約データベース等の多方面からのアプローチを行うことにより、レファレンスサービスの質の向上を図りました。 ② 国立国会図書館運営のレファレンス協同データベースに12件のデータを登録しました。 ③ 専門・参考図書を提供する電子書籍サービス「KinoDen」から225タイトル、「LibrarianE&TRC-DL」から子ども・中高生向け学習参考書等を100タイトル追加しました。	○
(3) 県民の学びへの取組や課題解決を支援するような講演会を放送大学等と共同して実施します。	西南学院大学博物館との共催で、福岡県にゆかりがあり、当館の貴重資料の著者であるシーボルトの来日200周年に合わせた記念事業として講演会を開催しました。	☆

(4)新たなSNSの活用を検討し、当館事業やサービスの積極的な広報を実施します。	SNSへの投稿に当館のマスコットキャラクターである「ふっきょん」を活用した写真や動画を添付するなど親しみやすいものとなるよう工夫しました。また、新たにInstagramの運用を開始し、イベントや展示などの広報には積極的にSNSやホームページを活用しました。	○
--	--	---

2. 指標の達成状況について

指標項目	目標値	5年度実績	達成率	評価
購入予算(一般資料分)に占める専門書・参考図書予算の割合	50%	63%	126%	☆
電子書籍の利用数	65,000 冊	47,403 冊	73%	△
レファレンス件数(ふくおか資料室・子ども図書館を除く)	45,000 件	50,675 件	113%	☆
レファレンス協同データベースの利用数	278,000 件	289,332 件	104%	◎
パスファインダーの作成・更新件数(子ども図書館を含む)	12 件	13 件	108%	◎
特集展示の回数	32 回	32 回	100%	◎
展示や講演会などの共同企画に関する満足度	95%	100%	105%	◎
ホームページトップページ アクセス数	830,000 回	859,150 回	104%	◎
ツイッター(現X) ツイートインプレッション(ツイートを見た数)	380,000 回	285,194 回	75%	△

3. 評価及び今後の取組・改善点について

- 電子書籍サービスは、1号館(KinoDen)では専門書・参考図書のコンテンツを、2号館(Librari-E&TRG-DL)ではオーディオブックや子ども・中高生向けのコンテンツを提供し質・量の充実を図っているが、様々な調査において紙の書籍に比べてコンテンツ数が少ないことが課題としてあげられている。利用者の確保には提供されるコンテンツに依存するところも大きい。今後の利用者の増加に向け、更なる周知や学校等と連携した団体利用の促進を図りたい。
- 国立国会図書館が運営するレファレンス協同データベースにおいて、当館から登録した事例の利用実績に対し国会図書館から礼状の贈呈を受けるなど、5年度も全国的なレファレンスサービスに貢献することができた。今後もレファレンスサービスの質の向上を図りながら、県民をはじめとする多くの人に利用されるような事例の蓄積に努めていきたい。
- パスファインダーは、8テーマ(13件)の更新を行い、同時に、二次元コードを掲載するなど使いやすい形式にリニューアルし利便性の向上を図った。
- 郷土にゆかりのある人物や歴史上の出来事に対しては県民の関心も高く、引き続き、節目となる年などを捉えて、県民の興味・関心に応え、郷土に関する学びに繋がるような事業に取り組んでいきたい。
- システム更新に伴うホームページの刷新により、多くのアクセスを得ることができた。一方で、ツイッター(現X)では、マスコットキャラクターを活用して写真や動画を添付するなどしたもの、十分なインプレッション数が得られなかった。今後は新たに運用を開始したInstagramとともに、より多くの県民の関心を集める投稿ができるよう工夫を重ねたい。

目標2：「子どもの学びと読書へのいざない」

子どもの学びと読書活動の推進拠点として、子どもの豊かで多様な学びを支え、読書の喜びを伝えるお手伝いをします。

- (1) 子どもの本を網羅的に収集・保存・提供するとともに、子どもが読書に親しむための取組や技術の充実を図り、子どもの読書活動を推進します。
- (2) 学校や県学校図書館協議会と連携・協力し、子どもの探求的な学習や読書活動を支援します。
- (3) 読書ボランティアの養成や活動を支援し、市町村の子どもの読書活動推進に資するよう努めます。

1. 5年度重点取組について

取組の内容	実施状況	評価
(1) 子ども向け・青少年向け電子書籍等の非来館型サービスの充実と周知を図ります。また、おはなし会や1日子ども図書館員体験、青少年読書推進講座を開催します。	利用者カード登録や利用者からの問い合わせ時に子どもや中高生向け電子書籍(Librari-E&TRC-DL)を提供していることを紹介しました。また、毎週定例のおはなし会、こどもの読書週間や夏休み、クリスマス等イベントに合わせたおはなし会と併せて、近隣の小学校・幼稚園・保育園で来館おはなし会や招待おはなし会を行いました。青少年読書推進講座では、中高生に手に取ってもらうための本の見せ方の講習やボードゲーム体験・評価ワークショップを実施しました。	◎
(2) パスファインダーやテーマ別ブックリストの作成・更新を行い、学校図書館協議会と連携して各学校での利用促進を図ります。また、オンライン出前授業やボードゲーム貸出事業により、学校図書館と連携し青少年の読書推進に努めます。	パスファインダーについては、子ども用1件を新規作成し、青少年用4件を更新しました。また、オンライン出前授業は希望する学校がありませんでしたが、ボードゲーム貸出事業では18校49件の貸出を行い学校図書館との連携に努めました。	○
(3) 児童サービスの専門研修「子どもと読書」研修会などを実施します。	入門講座と専門講座を実施しました。専門講座では、ストーリーテリングについての講演のため東京子ども図書館から講師を招き、希望者には実演に対し評価を行うなど児童サービスに携わる方々の実践的技術の向上を図りました。	◎

2. 指標の達成状況について

指標項目	目標値	5年度実績	達成率	評価
定例おはなし会参加者数	900 人	845 人	94%	○
子ども図書館レファレンス件数	4,200 件	4,149 件	99%	○
子ども図書館・青少年コーナー特集展示等リスト作成回数	26 回	43 回	165%	☆
子ども情報ルームの学習目的利用数	450 件	715 件	159%	☆
子ども読書に関するボランティア研修会参加者数	130 人	162 人	125%	☆

3. 評価及び今後の取組・改善点について

- ・ 定例おはなし会参加者数とレファレンス件数は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い大幅に減少していたが、行動制限がなくなった事により回復傾向にある。5年度は目標値にわずかに届かなかったが、今まで通りの取組を継続しながら引き続き広報に努めたい。
- ・ 子ども読書に関するボランティア研修会参加者の増加は、新型コロナウイルス感染症の行動制限がなくなった事が主な要因と考えているが、引き続き、研修内容の充実を図り、子どもの読書活動推進に資する人材の育成に努めたい。
- ・ ボードゲーム貸出は4年度と比較して減少しているが、各自治体でのボードゲーム事業が浸透して、県内図書館での購入が進んだためと考えられる。今後は、貸出と併せてボードゲームを読書推進に繋げる手法などについての周知にも力を入れたい。

目標3：「ふくおかの文化を育む」

福岡県に関する資料・情報を収集・保存・利活用するため、紙資料の収集・保存とともに、デジタルアーカイブの充実を図ることにより、地域文化の継承・発展を支援します。

- (1) 福岡県に関する紙資料の収集・保存と並行して、デジタル化を主とする資料の媒体変換を行い、市町村と協力して県全体としてのデジタルアーカイブを構築することにより、福岡県独自の資料・情報の利活用と情報発信を推進します。
- (2) 福岡県に関するレファレンス・ツールの作成とレファレンス事例の蓄積により、国内及び国外の福岡県に関する調査・研究を促進します。
- (3) 地域の出版社や書店と連携・協力し、福岡県に関する出版物等を収集・保存し、利活用のための情報発信を行うことにより、地域文化の継承・発展を支援します。

1. 5年度重点取組について

取組の内容	実施状況	評価
(1) 当館が所蔵または受託する資料をデジタル化し、ホームページに掲載します。また、閲覧に支障をきたす資料についてはデジタル化し、原資料の保存に努めます。	寄託者の許可を得て、夢野久作資料の日記10冊のデジタル化及び当館デジタルライブラリへの掲載を行いました。	◎
(2) 郷土資料に関するレファレンス事例を、ホームページ及び国立国会図書館運営のレファレンス協同データベースに追加掲載します。また、地域に関する人物・雑誌記事のデータベースの充実を図ります。	郷土資料に関するレファレンス質問事例20件を当館ホームページと国会図書館レファレンス協同データベースに追加登録しました。また、図書や雑誌の内容から福岡に関連する人物文献317件、雑誌記事2,218件を登録しました。	◎
(3) ホームページにおける地域の書店と出版社を紹介する項目の充実を図ります。	ホームページで新たに8店の県内各地の特色ある書店を紹介しました。	◎

2. 指標の達成状況について

指標項目	目標値	5年度実績	達成率	評価
ふくおか資料室の質や量についての利用者満足度	95%	93%	98%	○
デジタルライブラリへのアクセス数	13,000件	17,132件	132%	☆
ふくおか資料室でのレファレンス質問件数	3,800件	6,273件	165%	☆
国立国会図書館レファレンス協同データベースへの登録件数	20件	20件	100%	◎
ふくおか資料室に掲載の出版社のページへのアクセス件数	1,600件	2,403件	150%	☆

3. 評価及び今後の取組・改善点について

- 重点取組と指標について、ほぼ目標を達成できた。特にデジタルライブラリへのアクセス数は4年度より4,000件以上増加した。デジタルライブラリに夢野久作資料の日記を掲載したことを知らせた当館のSNSは24,000インプレッションを数えており、また、デジタルライブラリの掲載について新聞でも報道されるなど、関心の高さが伺えた。

- ・ 雑誌記事索引や人物文献の登録は、郷土に関するレファレンスサービスに寄与するだけでなく、郷土史の研究において貴重な基礎資料となるものであり、すぐに成果がでるものではないが今後も継続して取り組みたい。
- ・ ホームページにおける地域の書店と出版社紹介は、6年度以降、県内市町村図書館にも情報提供を依頼するなど、引き続き地域の書店や出版社にスポットライトを当てて行きたいと考えている。

目標４：「バリアフリーの実現」

県民が、等しく学び、読書に親しむことができる環境を整備することにより、心の豊かさと生きる力を育むお手伝いをします。

- (1)「障害者差別解消法」、「読書バリアフリー法」などに適切に対応したサービスや設備の改善を行うことにより、誰もが使いやすい図書館を目指します。
- (2)読書に困難がある人へのサービスとして、大活字本やデージー及びマルチメディアデージー図書・ＬＬブック・音声読み上げ機能付電子書籍等を収集・提供し、情報アクセスの向上に努めます。
- (3)さまざまな理由による情報格差を解消するため、先進的な情報技術の活用も視野に入れ、利用案内や検索支援等、県民の情報リテラシー（情報の利活用能力）向上のための情報提供を行います。
- (4)福岡県で生活する外国人へのサービスとして、また、県民との相互理解を深めるため、日本を紹介する資料や外国語資料の充実に努めます。

1. 5年度重点取組について

取組の内容	実施状況	評価
(1)障がいのある人の図書館利用に対し、適切な合理的配慮を行えるよう研修等を通じて職員の資質向上に努めるとともに施設・設備等の環境改善に努めます。	子ども読書推進講演会ではバリアフリー図書を多く出版する偕成社の編集者を招いて講演会を開催し、出版におけるきめ細かな配慮などのバリアフリー図書に対する図書館関係者の理解を深めました。 福岡県点字および録音図書連絡協議会では、読書バリアフリーの推進のために電子書籍が果たす役割と可能性に関する講演会を開催しました。	◎
(2)読書に困難がある人への読書機会の充実と情報発信 ①読書に困難がある人の読書機会の充実のため、多様なバリアフリー資料の収集と提供に努め、バリアフリーサービスの効果的な周知方法について研究し利用拡大を図ります。 ②ボランティア活動を支援しデージー図書の製作に取り組むほか、広く情報発信を行うとともに、国会図書館へのデータ登録を積極的に行い、製作資料が広く活用されるよう取り組みます。	①読書に困難がある人向けの資料として、大活字本 61 タイトル、点字資料 7 タイトル、LLブック 14 タイトル、デージー図書 102 タイトル、マルチメディアデージー 36 タイトルを収集したほか、電子書籍においてオーディオブックや音声読み上げ機能付コンテンツを 906 タイトル収集しました。 また、バリアフリーサービスを周知するため、バリアフリー図書や最新機器の体験会を北九州市と福岡市で実施し、約 130 名の参加者がありました。 ②当館の録音図書製作ボランティアと連携し、100 タイトルのデージー図書を製作したほか、新刊や点字図書館案内等の情報発信に努めた。また、国立国会図書館にデージー図書データ 180 タイトルを追加登録し、35,575 回の利用がありました。	○
(3)障がいの有無にかかわらず、多くの利用者に分かりやすいホームページの充実に取り組みます。	システム更新に伴い、障がいの有無にかかわらずわかりやすいホームページとなるよう、デザインの変更等を行いました。	☆
(4)本を活用した外国人への読書機会の提供と日本語や文化に対する理解の支援 ①福岡県内に在留する外国人にとって、日本語の習得や文化の理解に役立つ資料の収集に努めます。	①英語で書かれた本や外国人に日本文化等を紹介・解説した本を中心に、120 冊を収集しました。	△

②日本語の習得や日本語を母語としない子ども向けの電子書籍の充実に努めます。	②英語を中心とした多言語対応のコンテンツのほか、日本語以外を母国語とする子ども向けの日本語習得用コンテンツ8タイトルを収集しました。	
---------------------------------------	--	--

2. 指標の達成状況について

指標項目	目標値	5年度実績	達成率	評価
読書に困難がある人向け図書の受入タイトル数(電子書籍以外)	250 タイトル	219 タイトル	88%	△
読書に困難がある人向けコンテンツの提供数(電子書籍)	700 タイトル	906 タイトル	129%	☆
録音図書貸出点数(個人団体全件)	2,300 冊	2,338 冊	102%	◎
国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービス利用数(当館登録分)	33,000 件	35,575 件	108%	◎
検索支援のページ(ホームページ)へのアクセス数(調べものをするページのアクセス数)	4,000 回	4,621 回	116%	☆
障がい者サービスのページ(ホームページ)へのアクセス数	1,500 回	2,315 回	154%	☆
外国人向け及び外国語図書の受入数	240 タイトル	120 タイトル	50%	△
外国人向け及び外国語コンテンツの提供数(電子書籍)	25 タイトル	8 タイトル	32%	△

3. 評価及び今後の取組・改善点について

- ・読書に困難がある人向けの資料の出版数は少ないため、幅広く出版情報をチェックしながら計画的な収集に努めた。また、電子書籍の選書時にはオーディオブックや読み上げ機能対応のフォーマットのコンテンツを優先的に収集した。
- ・国会図書館へのデジータ登録数の増加に伴い利用数も増加傾向であるが、利用者のニーズに応えるため、全国的な利用傾向を分析し収集に活かしていきたい。
- ・外国人向け及び外国語図書については、入手手段の確保が困難なものが多いため、出版情報の収集のほか、取扱書店の開拓に努めたが、目標値に達することができなかった。引き続き情報収集に努めたい。
- ・外国人向けの電子書籍は3年度予算で網羅的収集を行ったため、4年度同様、新規にリリースされた電子書籍の収集に努めた。
- ・北九州市と福岡市でバリアフリー図書読書体験会、県立図書館でバリアフリーに関する講演会を開催しバリアフリー図書の広報に努めたが、今後はバリアフリー図書読書体験会を県域全体で開催するなどさらに広報に努めたい。
- ・システム更新を機に、読書バリアフリーのページ(旧・障がい者サービスのページ)へのリンクをわかりやすい位置に移動するなど、デザイン上の工夫を重ねた。引き続き障がいの有無にかかわらずわかりやすいページの作成や、音声読み上げページの改善に努めていきたい。

目標 5 : 「図書館サービスの推進拠点」

公共・学校・大学・専門図書館やボランティア団体をはじめとする県内の読書関連団体と連携・協力し、電子図書館を含む県全体の図書館サービス向上を目指します。

- (1) 研修事業を充実するとともに、図書館運営等に関する情報提供や各種相談に対応し、新たなサービス等についての調査研究を行うことにより、県内公共図書館等職員の育成支援と技術の継承を図ります。
- (2) 資料配送業務を含む「福岡県図書館情報ネットワーク」の運営により、相互貸借や共同研修の企画など、図書館の館種を越えた連携・協力を推進します。
また、電子書籍の本格的導入により、非来館型サービスを展開し、ネットワークの充実を図ります。
- (3) 図書館ボランティアと連携し、ボランティアの育成を支援することにより、官民の垣根を越えた図書館サービスの充実を目指します。

1. 5年度重点取組について

取組の内容	実施状況	評価
(1) ニーズに応じた研修テーマを設定するなど各種研修の充実を図り、市町村立図書館等職員の資質向上を図ります。	市町村立図書館等のニーズをとらえたテーマで、講演や演習による研修会を開催しました。 青少年読書推進支援事業では「ボードゲーム体験・評価ワークショップ」を実施しました。	☆
(2) 福岡県図書館情報ネットワークの運営により、相互貸借などにより館種を越えた連携・協力を推進する環境の整備に努めます。	県内の市町村立図書館(貸出 10,482 冊、借受 2,097 冊)のほか、大学等(貸出 442 冊、借受 207 冊)とも連携し、資料の相互貸借を行いました。	◎
(3) ボランティア養成講座等を実施し、図書館サービス向上に資する人材の育成及び資質向上に努めます。	音訳ボランティアの資質向上を図る研修会を集合形式及びアーカイブ配信にて行いました。集合参加 94 名、配信は 103 名が希望し延べ 201 回視聴されました。 また、布の絵本制作ボランティア養成講座を開催し、7 名の参加がありました。	☆

2. 指標の達成状況について

指標項目	目標値	5年度実績	達成率	評価
図書館職員等対象研修参加者満足度	100%	100%	100%	◎
県内公共図書館等への職員派遣(講師・委員・相談等)回数	40 回	64 回	160%	☆
資料配送業務の取り扱いコンテナ数	6,500 個	6,700 個	103%	◎
「福岡県図書館情報ネットワーク」の参加館数	68 館	68 館	100%	◎
市町村図書館等が利用した横断検索数	121,000 回	119,409 回	99%	○
ボランティア向け研修参加者数(点録協等含む)	200 人	288 人	144%	☆

3. 評価及び今後の取組・改善点について

- 市町村立図書館等の職員研修については高い満足度を達成することができた。今後更なるニーズを把握しながらより充実した内容の研修を実施し、県内公共図書館等職員の資質向上に努めたい。

- ・ 資料配送業務のコンテナは、相互貸借と指定館受取・返却サービスで使用している。相互貸借に関しては、当館での受取や借受館の利用者登録が必要なため大幅な増加は見込めない。一方、指定館受取・返却サービスについては、当館に来館することなく希望する図書館での受取・返却が可能な利便性が高いサービスであるため、Webでの利用者登録と併せて周知することで潜在需要を掘り起こし、利用拡大を図りたい。
- ・ 布の絵本制作ボランティア養成講座の受講者がボランティア団体に入会するなど人材の確保にもつなげることができた。今後も図書館サービス向上に資するボランティアの育成に努めたい。

用語の説明

レファレンス（サービス）（1 頁、2 頁、3 頁、4 頁、5 頁、6 頁）

利用者が情報あるいは資料について図書館員に尋ねる質問。来館の利用者からの質問だけでなく、手紙、ファックスなどの文書による質問、電話、電子メールなどの通信手段を利用した質問もある。図書館員がレファレンスを受けて回答することは、レファレンスサービスの中心的な業務である。

パスファインダー（2 頁、3 頁）

あるテーマについて調べるときに役立つ資料（図書・雑誌・データベース・ウェブサイト）や情報の探し方を簡単に紹介したもの。紙での提供のほかホームページ上でも公開している。

レファレンス協同データベース（1 頁、2 頁、5 頁）

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調べもののためのデータベースである。

定例おはなし会（3 頁、4 頁）

当館が行っている「赤ちゃんのおはなし会」「小さな子のおはなし会」「小学生のおはなし会」の3つをいう。

〔赤ちゃんのおはなし会〕

水曜日 午前 11 時から

奇数週（第 1・3・5 週）は 0 歳児向け、偶数週（第 2・4 週）は 1・2 歳児向けの内容。

わらべうた・手遊びなどを、赤ちゃんと一緒に楽しむプログラム。

〔小さな子のおはなし会〕

土曜日（第 1・3・5 週） 午後 2 時から

布の絵本、絵本、紙芝居、おはなしなどのプログラム。

〔小学生のおはなし会〕

毎週 土曜日（第 2・4 週） 午後 2 時から

ストーリーテリング、絵本などのプログラム。

デジタルアーカイブ（5 頁）

有形・無形の文化財をデジタル情報として記録し、劣化なく永久保存するとともに、ネットワークなどを用いて提供すること。

大活字本（7 頁）

弱視者用に大きな活字で印刷された図書。大型活字本ともいう。実際には、印刷方式にかかわらず、文字の大きな図書の総称としても用いられる。高齢者の利用もある。

デイジー（7 頁、8 頁）

デイジー（DAISY）とは、Digital Accessible Information System の略称。活字による読書が困難な人々のためのデジタル録音図書の国際標準規格である。

マルチメディアデイジー（7 頁）

パソコン等で「聴きながら読む」ことができる電子書籍。音声と一緒に文字や画像が表示される。

障害者差別解消法（7 頁）

《「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の通称》障害者基本法の基本理念に沿って、障がいや理由とする差別を解消するための措置などについて定めた法律。障がいのある人に対する不当な差別的取扱いを禁止し、行政機関や事業者に対して合理的配慮の提供を求めている。

読書バリアフリー法（7 頁）

《「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」の通称》「障害の有無にかかわらず全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与」することを目的とし、国や自治体に視覚障がい者等の読書環境を整備する責務などが定められている。

LLブック（7 頁）

LLはスウェーデン語で「やさしく読みやすい」を意味する言葉の略。知的障がいや学習障がいなどがある人々も楽しめるよう、内容を理解する助けとしてイラストや写真、記号を多く添えた本。「えるえるぶっく」という。

福岡県図書館情報ネットワーク（9 頁）

県内の公共図書館及び図書室等で「相互貸借」のネットワークを構築しており、自館に所蔵していない資料を他館から借りることが可能である。また、県内公共図書館等の蔵書の横断検索システムと連動し、横断検索の結果、所蔵館に対してインターネットを介しての貸出申込みや回答が可能である。

ボードゲーム体験・評価ワークショップ（9 頁）

少人数のグループでボードゲームを体験し、体験したボードゲームを評価する参加型イベント。評価項目は「わかりやすさ」、「楽しい?」、「ゲーム中のコミユカ」、「本の紹介につなげやすい?」などがある。また、参加者の購入の検討やイベントの企画、交流の手段にもなっている。

【参考文献等】（順不同）

- ・ 図書館情報学用語辞典 第4版
- ・ 国際交流基金国際センター図書館のしごと
- ・ 国立国会図書館データベースホームページ
- ・ 小学館デジタル大辞泉